

本門大法御書

弘安期

千未弘の大法と申すは本門の大法なり云云。疑って云はく、此の事しか爾るべしとをぼへず。天台大師は此の法華經を二經 あり。所謂いわゆる迹門十四品一經、本門十四品一經なり。迹門の大法は一切經に対しての大法なり。本門の大法と申すは、迹門の円仏の大法に対して彼を小法と下しての大法なり。所謂天台の云はく、或は迹門の小法といふ、或は小仏とゆゑ、或は妙樂の云はく、或は迹門の円人を畜生とゆう。此等に勝れていかなる法門ありて本門のごくりにあ極理尚残るといふや。答へて云はく、月支・漢土・日本国の二千二百卅余年が間の寺塔を見るに、いまだ寿量品の仏を造立せる伽藍がらんなし、精舎しょうじゃなし。